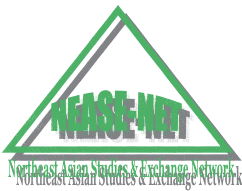


北東アジア研究交流ネットワーク



ニューズレター

第 18 号

論文

中国の対外政策と我が国のアジア外交

高原 明 生 1

政策セミナー・発表要旨

習近平時代の中国経済と日本

大 西 康 雄 6

平成26年度活動報告

7

編集後記

8

論文

中国の対外政策と我が国のアジア外交*

東京大学

高 原 明 生

1. 背景としての胡錦濤政権（2002-2012）—— 内政と外交の連動

習近平政権下の外交政策を理解する上では、その前の胡錦濤政権の時代について理解することが重要である。胡錦濤が総書記を務めた間、国内では和諧社会（調和のとれた社会）、国際的には和諧世界（調和のとれた世界）の構築を目指した。これは、江沢民が強調した世界認識と対外政策の課題、すなわち、今は大国間の角逐が日々激しさを増しており、中国は総合国力競争を勝ち抜かねばならない、というラインとはかなり異なる方針であった。

対日政策に関しても、胡錦濤、温家宝はソフトなアプローチをとる傾向があった。問題は、江沢民が権力を手放そう

とせず、胡錦濤政権の下で大きな政策論争が表面化したことである。例えば、発展の中国モデルなるものは存在するのか、改革は必要なのか、普遍的価値なる概念は成り立つのか、儒教を復活させ活用するのかしないのか、そして外交上の自己主張を強めるのか、低姿勢の協調外交を続けるのか、等々をめぐり意見の不一致が露呈した。そして、内政が外交と連動する事態ははっきりと現れた。例えば2003年や2008年のように、胡錦濤の権力基盤が固い時ほど日本に対して友好的な



*）本論文は、2014年8月30日に開催された NEASE-Net 第31回政策セミナーでの報告に対応したものである。（NEASE-Net）